

平成28年度 政務活動費 先進都市調査報告書

会派名	市政協同
議員名	我妻静夫・古澤孝市・徳中嗣史・金濱元一・早川昇三・南川達彦・黒光ひさ 鈴木和彦
調査実施年月日	平成28年4月20日
調査先 自治体名等	栃木県 宇都宮市
調査項目	全国に誇れる・選ばれるまちづくり事業について
調査目的	1. 全国に誇れる・選ばれるまちづくり事業の推進について (1) ユニバーサルデザイン文書マニュアルについて (2) 返還免除型育英修学資金貸付制度について
報告内容 実施したこと	<p>1. 視察先(市町村)の概要 人口 : 517,539人(H27. 4. 1現在) 行政面積 : 416. 85km²</p> <p>2. 視察内容 宇都宮市では、全国に誇れる・選ばれるまちづくり事業の推進とその事業の中にあるユニバーサルデザイン文書マニュアル、返還免除型育英修学資金貸付制度について視察を行った。</p> <p>全国に誇れる・選ばれるまちづくり事業の推進は、宇都宮市が「日本一」と謳えるような全国に誇れる施策・事業を積極的に展開、推進することにより、市民が宇都宮市に誇りや愛着を持ち、将来にわたり「住んでよかった」「住み続けたい」と感じることができる都市の実現を目指すことを目的に、全国でトップクラスの取り組みや全国に先駆けての取り組みのほか、宇都宮市の独自性等により「宇都宮らしさ」が期待できるものを対象にしている。平成27年3月まで新たに選定した取り組み5事業とこれまでに選定し定着している取り組み76事業、計81事業に取り組んでいるとのことであった。</p> <p>次に全国に誇れる・選ばれるまちづくり事業に選定されているユニバーサルデザイン文書マニュアルについては、少子高齢化や障がい者の地域生活への移行など急速な社会情勢の変化を背景に、行政制度や各種サービスは複雑化・多様化しており、これまで以上に高齢者・障がい者をはじめとするすべての市民が見やすく分かりやすい文書・印刷物等の作成が必要とされていることから、外部あて文書・印刷物等に係わる庁内用の指針として作成、市の公文書の書き方の手引書である「心くばりのある文書づくり」の基礎の上に、公文書のほかに市が作成するチラシやリーフレット等についてユニバーサルデザインの視点から付加すべき事項をまとめ庁内用の基本指針とするものであるとのことであった。</p> <p>次に全国に誇れる・選ばれるまちづくり事業に選定されている返還免除型育英奨学資金貸付制度については、教育費の負担感が子どもを生まない理由として最も多いことや大学進学時、就職時に若者の人口流出を招いているという現状から、奨学資金制度を充実させることで、教育費の負担軽減や若年層の定住促進を図ることを目的とし、現行の奨学金貸付制度の金額(月額45,000円)は、主に授業料を補うことを想定していることから、新制度</p>

(月額20,000円)については、主に学用品等に必要な経費を補うものとして設計しているとのことであった。また、免除の条件は最終学校を卒業した年の4月から1年以内に宇都宮市に居住し、かつ5年間居住を継続した場合となっているとのことである。(所得制限あり、募集人数は10名程度)

奨学金利用者推移

	H24	H25	H26	H27
奨学金 (新規)	511名 (151名)	503名 (144名)	428名 (107名)	414名 (120名)
入学一時金	23名	14名	19名	29名

感想 (まとめ)
本市へ生かせること等

本市においても、市民が室蘭市に誇りや愛着を持ち、将来にわたり「住んでよかった」「住み続けたい」と感じることができる都市の実現を目指し、全国一や道内一という施策をもっとクローズアップする取り組みが必要であると感じた。また、自分の住んでいるマチの誇れるものは何か、わかりやすく見比べることができることが重要と感じた。例えば子育て支援を推進している本市は他都市と比べどうなのか、統計やアンケート等を用いて、全国、道内の都市と見比べることができるよう進めることが必要と感じた。宇都宮市のように、様々な施策がトップクラスなのか、先駆けているのか、独自性があるのか等、はっきりとデータから見える化することにより、市民にわかりやすく理解が得られ住んでいるマチに誇りが持てるようになるのではないかと感じた。